雷の子

カトリック町田教会
町田市中町３-２-１
電話　042-722-4504
ＦＡＸ　042-722-4512

いかずちの子

http://www.machida-catholic.jp/

わたしの父であり、あなた方の父でもある方、また、わたしの神であり、あなた方の神である方のもとへ、私は昇って行く。（ヨハネ　20・17）

開かれたキリストの墓

助任司祭　小田　武直

二〇二二年、主のご復活、まことにおめでとうございます。復活の主日の福音箇所は、ヨハネ福音書のマグダラのマリアと弟子たちが空の墓に遭遇する場面でした。実にキリストの復活はこの空の墓から始まるのです。納められているはずの主の体がどこにも見当たらず、そこには主の体を覆っていた亜麻布、頭を包んでいた覆いだけが置かれていたのです。それをはっきりと目撃したシモン・ペトロともう一人の弟子は「見て、信じた」（20・8）とあります。しかし、そのすぐ後には「二人はまだ理解していなかった」（20・9）とあるので、彼らが即座にイエスの復活を確信したというわけではなさそうです。何を信じたというのでしょうか。

それは人間として生き、人間の苦しみの極限まで味わい尽くして死なれたイエスが、墓に葬られたはずなのに、忽然といなくなってしまった、そのこと自体を信じたということなのかもしれません。それは、少し前までイエスの身近にいて、その息遣いや温もりまで体感していた弟子たちにとっては、あまりにも衝撃的で、また空虚感に襲われる出来事だったと思われます。

しかしこの全てが奪われたかにみえた空しさこそが、主の復活の始まる原点でありました。弟子たちがこの出来事と、生前のイエスが言っていたこととを結びつけるのは、さして時間を要するものではありませんでした。イエスがすぐに弟子たちの間に訪れて下さったからです。

主のご復活は、開かれたキリストの墓から始まりました。空の墓の空虚の極みに主の栄光が現され、残された主の衣服の傍らで、神の使いによって復活の主が指し示されたのです。私たちの主は、神でありながら滅びゆく人間の行き先である墓にまで下り、そのことによって人間の闇の深みにまで及ぶ救いをもたらして下さったのです。

実に私たちの世界は苦しみに満ち、限界に縛られ、その究極に死が立ち塞がっています。私たちにとってそれらは忌むべきことで、何とか断ち切りたいと願うもので、それを克服することは、人類史上、何度も試みられてきたことでした。

そういう意味では、私たちの神の救いも、そのような人間の悲願を即座に解決するものではないかもしれません。私たちの神は、依然、この世界の悪を立ちどころに滅ぼすことはしませんし、この世を生きる私達を一足飛びに、神の世界に迎え入れることもしません。私たちはこの世界の悲喜こもごもの現実に右往左往しながら、それでも幸せを求めて歩み続けているのが実際です。

ところが、たとえこの世界の悪が立ちどころに滅ぼされることはなくても、私たちの苦しみや死の現実が即座になくなるわけではなくても、その苦しみを通してからさえ、最善の恵みを引き出される神の愛と、私たちは出会うこととなったのです。それが主のご復活です。つまり、私たちの神は、この世界が決して悪のままで終わることはないこと、苦しみが苦しみのままであることはないことに信頼して、最愛の御子を悪と苦しみの只中にまで送り出して下さったのです。そのことによって、私たちのどのような闇の深みにも、この地上のどのような悪の現実にも神の光がもたらされ、救いに与る希望が与えられたのです。

またお世話になります

運営委員会議長　前田　充

またお前か、と思われる方も多々居られるかと思います。34年前、町田に転籍して程無く、或る方にお誘いを受け、教会の役員をさせて頂く事になりました。それからヤコボ委員会～運営委員会と名称は変わったものの、複数回ご奉仕をさせて頂く事に恵まれました。またまた今回お声かけて下さった方が、偶然にも34年前に、私を教会役員に導いて下さった方のお嬢さんであることが分かりました。何か因縁めいたものを感じ、自分でも驚く程スンナリと応諾してしまいました。更には、最初の会議で議長を引き受けてしまうと云う過ちを犯してしまいました。後々省みるに、自身のここの所の心身の退化はおびただしく、果たして今後皆様にご迷惑をおかけすることになりはしないか…正直心穏やかではありません。

きょう日の運営委員会と、過去体験してきた教会委員会と大きく異なる事がございま

した。世の中の流れとリンクして、委員会も多くの部分でデジタル化されていたことです。老若男女にかかわらず、その方面に明るい方々の先導で、町田教会は順調にＩＴ化されているのではないでしょうか。かく云う私は大のデジタル音痴、アナログ人間です。それでも世の流れには抗し難く、必要最低限のデジタル化を詮無くしてきました。現実、運営委員会の中で、この先少なからずご迷惑をおかけする事が予測され、信徒の皆様には予めご寛恕頂き度お願い申し上げておく次第です。

事程左様に世の中のデジタル化は日進月歩で進み、私達の町田教会も多くの部分でその恩恵を受けています。この先、今以上にＯＡ化が進み、想定以上の教会活動が展開されるかもしれません。世のすう勢として致し方が無いのでしょうが、私は若干の不安を持たざるを得ません。このコロナ禍と相まって、お互いのコミュニケーションの無機質化が、今迄以上に進んでしまうのではないのか…。神様を介しての人間と人間の会話が、どんどん冷たく温かみを失って行きはしないかと…。この私の思いが杞憂であります様、神様に祈りつつ、ペンを置きたいと思います。

世界自然遺産の島

鹿児島司教区の終身助祭

四條　淳也

二〇〇八年九月に鹿児島司教区の終身助祭に叙階され、すぐに生まれ故郷奄美大島の東にある小さな喜界島教会に単身赴任し、二〇一四年二月まで司牧しておりましたが、病に倒れ、留守宅のある神奈川県座間市に戻り療養しております。奄美大島は最近世界自然遺産に決まりました。奄美大島には「アマミノクロウサギ」など九五種類の絶滅危惧種が生息する古代の自然が残る貴重な島です。

そんな夢のような島にも悲しいカトリック迫害という過去がありました。奄美大島にカトリックが宣教されたのは一八九二年（明治五）パリミッションのフェリエ神父さんが来られてからでした。その年の聖母被昇天には一七二名が洗礼を受ける程大きな恵みがありました。その後続々と信者が増え、フランシスコ会に移管された一九二三年には四〇五七人になっており、一九三二年のカトリック迫害直前には五〇〇〇人を超えるまでに増えていました。

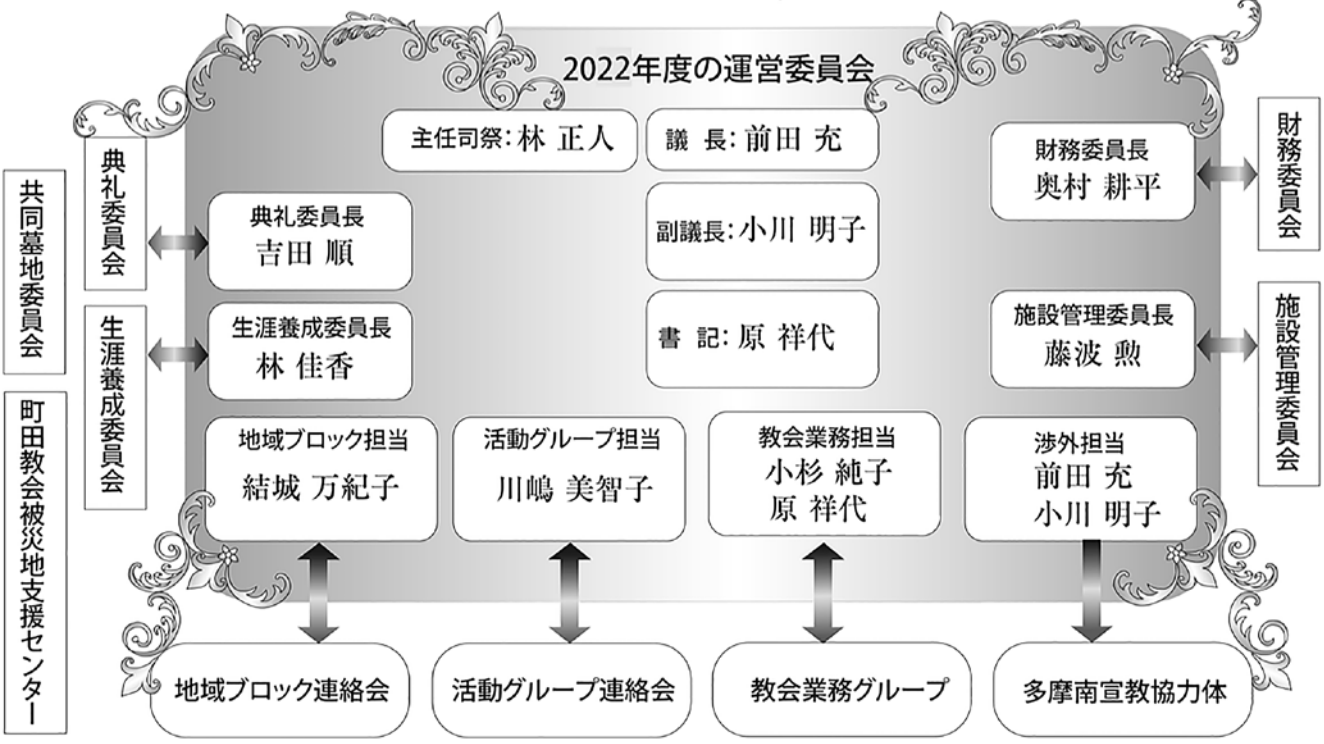
カトリック迫害が始まったのは日本陸軍が奄美大島に要塞を建設し始めた一九三〇年頃からで、最初要塞の様子が米国に逐一漏れているのは、カトリックの宣教師たちがスパイだと言いがかりを付け、全島で迫害が始まりました。カトリック信徒はスパイの手先と断定され、カトリック信徒の棄教をせまり、同意しない信徒の家を狙って防火訓練と称して、警察や町内会がこぞって放水をしました。

他にも多くの悲しい迫害の事実が記録されております。

そのような時、信徒の一部

（5頁に続く）

本年度の運営委員のみなさん



2022年 カトリック町田教会 実行体制（Ⅰ）

典礼委員会（典礼委員長兼運営委員：吉田 順）

グループ		連絡担当
聖歌奉仕		鈴木 節子・武永 恭子
朗読手配		小溝 茂雄
典礼の花		石井 好美
香 部 屋		伊藤 真理
ミサ進行		伊藤 宏
聖体奉仕		遠田 治正
侍　　者		島田 和人
冠婚葬祭	聖　歌	丸井 千尋
	結婚式	高尾 敬子
	葬　儀	伊藤 真理

財務委員会（財務委員長兼運営委員：奥村 耕平）

係	業務内容	担　当
財源の確保	財政の管理	奥村 耕平
収入管理	ゆうちょ銀行	林　茂
	銀　　行	林 神父・鈴木 亮作
	現　　金	定光 孝子
支出管理	現金出納（支払）	田澤 三郎
	ゆうちょ銀行振込	鈴木 亮作
	銀行振込	名倉 理恵・鈴木 亮作
データ管理	会計・決算データ管理	田澤 三郎
	名簿データ管理	橋村 元雄
資産管理	資産・備品管理	奥村 耕平

監査委員	立木 欣吾・小溝 茂雄

施設管理委員会（施設管理委員長 兼 運営委員：藤波 勲）

係	業務内容	責任者	委　員
施設管理	・中長期大規模改修および修繕 ・小規模改修および修繕・定期修繕 ・教会建設～建設後の教会施設・植栽の維持管理およびメンテナンス	藤波 勲	荻津 兆秀・池田 克久・大木 雅信 西野 武・松村 潔

生涯養成委員会（生涯養成委員長 兼 運営委員：林 佳香）

係	業務内容		責任者	委　員
生涯養成	信徒の育成・信仰の理解 霊性を養う		林 佳香	安 京和・高田 恵一・千種ジェシカ 廣田 和之・藤波 由香・藤野 真人 水野 貴久子・山口ローレン・渡辺 竹夫
教会学校	土曜学校		吉田 光子 嶋田 弘志 池田 幸織 福富 英里子	保護者をはじめとする皆さんで構成
	日曜学校	≪英　語≫第２日曜日	田中ジェニファー・阿部エスペランサ	
		≪日本語≫第４日曜日	原 祥代・坪山 明美・三須 真理	
	中高生会		島田 和人	阿部 恵慈・嶋田 直人・宮永 開
	たまごの会（未就学児のお話会）		小林 由里子	青木 重子・佐藤 玲子・皇 恭子・福富 英里子

共同墓地委員会（共同墓地委員長：鈴木 節子）

委　員	安藤 康弘・小溝 茂雄・池田 幸織

地域ブロック連絡会

（議長：原 祥代・副議長：藤波 勲・中山 恵／運営委員：結城 万紀子）

ブロック	連絡員	ブロック	連絡員
第１	吉行 玲子・山縣 敏子	第６－１	小渡 美智子・茂木 瑠璃子
第２	三上 昌子・石井 節子	第６－２	小溝 茂雄・小池 裕子
第３	松村 百合子・鈴木 節子	第７	藤波 勲・佐藤 尚子
第４	中島 圭子・結城 万紀子	第８	国友 正子・水本 久子
第５	皇 恭子・中山 恵	第９	原 祥代・名倉 理恵

活動グループ

世話人：池田 克久・坂井 剛／運営委員：川嶋 美智子

2022年 カトリック町田教会 実行体制（Ⅱ）

教会業務担当（運営委員：小杉 純子・原 祥代）

係	連絡担当	構成員
案　内	鈴木 亮作	安藤 康弘・宇都宮 幸子・奥村 耕平・神山 明子 定光 善吾・立木 欣吾・田澤 三郎・辻 成己 坪山 明美・原 祥代・藤波 由香・山口 広文
ミサ案内	神谷 富雄	佐藤 千代子・佐藤 和子・水野 貴久子
日曜日受付 （転出入）	山口 静子	定光 孝子・蛭町 真理・小林 由里子・名倉 理恵 高尾 敬子・林 佳香・辻 成己・飯島 葉子
平日受付	水野 貴久子	三上 昌子・水野 雄一・横塚 千枝子・福田 喜美枝 秦 ゆう子・田中 力・大迫 祥子・大久保 珠美 前島 千佳子・池貝 孝子・横山 真弓
土曜日受付	山口 静子	木村 洋子・鹿内 容子・高尾 敬子・林 佳香
名　簿 （教会原簿）	橋村 元雄 林 神父	富樫 和美
雷の子	中原 毅志	池永 廣美・小林 洋子・大久保 豊・池田 克久 阿部 恵慈・嶋田 直人
ＩＴ推進	遠田 治正	西野 武・辻 成己・池田 克久・藤波 勲
ウェブサイト	林 神父 遠田 治正	丸井 千尋・林 佳香
週　報	高尾 敬子	林 佳香・丸井 千尋・笠原 恵
月　報		
図　書	横塚 千枝子	宇治 淳子・井上 淑子・石井 節子・三上 昌子 秦 ゆう子
聖品販売	守田 紀美江	小池 裕子・橋本 愛子・中山 恵・池永 廣美 小林 洋子・鈴木 節子・秦 ゆう子

各種対外活動（運営委員：前田 充）

係	業　務	業務内容	担　当	担当メンバー
渉　外	教区関係	教区宣教司牧評議会	伊藤 宏	多摩南宣教協力体（成城・町田）の信徒より選出
		一粒会	廣田 和之	
	宣教協力体 関係	多摩南宣教協力体連絡会	前田 充 小川 明子	
	その他	施設利用 外部団体	林 神父	
		その他		

町田教会 被災地支援センター（センター長：林 神父）

業務内容	事務局長	参加メンバー
国内外の災害救済のために必要な援助活動	立木 欣吾	その都度

は本土へ家族で避難していました。一九四五年の終戦により日本陸軍の迫害は止み、米国の信託統治になり、平和な時代が訪れました。大島の信徒は皆で米国に負けて良かった、と言っております。終戦後すぐに、米国のカプチン会の宣教師たちが大量の救援物資と共に来島したからです。

その後、迫害に加担した方たちの多くが、カトリックの良さを認め、洗礼を受けられており、熱心な信徒として暮らしております。迫害を受けた信徒たちは、そのような様子を見て、恨むことなく多くを許しております。

参考図書

『悲しみのマリアの島』
『聖堂の日の丸』
『奄美沖縄カトリック宣教史』
『奄美でカトリック排撃はなぜ起こったか』

四旬節黙想会

ともにいてくださった

富樫　和美

〝一見の苦しみの中に神の恵みがある〟

えっ?! 苦しみから逃れることばかり神に祈っている信仰心の薄い私には理解しがたい。昨今の世の中の不条理、苦しみの現実、どこに神の恵みを見いだせるのか？

「キリストの十字架の意味」という超難題の黙想会のテーマは、おそらくずっと問い続けることになる。悲しみ、苦しみの〝淵〟〝どん底〟って…。ブラックホールでなく淵、底があると思う時、それは包み込んで踏みとどまらせている神そのものなのかもしれない。

あの十字架上での出来事の時、皆が期待したミラクルなことは何も起こらなかった。でもキリストの中で神はじっと寄り添い包み込み、ともにいてくださった!! そばにいるという最大の愛。人間の弱さに揺れながらもそのことを感じられるよう、私も日々過ごしていこうと思う。心の底から〝神のみ旨のままに〟と思えるように、復活の恵みを信じて。

黙想会の機会を与えてくださった生涯養成委員会の方々、小田神父様に感謝いたします。

自分の信仰を振り返る

神谷　富雄

黙想会のテーマ「キリストの十字架の意味」は、今の私には荷が重い。キリストの十字架と復活はキリスト教の核心ですから。

初めてこの問いを考えるようになったのは15才の受洗の時だったように思う。80才を過ぎた現在でも未だ理解しているとは言えない。キリスト教を信仰する外国のある小説家は、「信仰というものは90%の疑いと10%の希望だ」と言ったという。私はこの説に妙に共感をおぼえる。

そこで、この機会に自分の信仰について振り返ってみた。

主イエスの自然人としての死と、霊としての復活の出来事は、未だ私の心の中では整理されていない。そのような不確実な信仰にもかかわらず、教会から離れられないのは何故なのかと自問してみると、それは主がこの私を「許してくださっている」ことと「主の食卓に招いてくださっている」と思っていること。「神の許し」と「主の食卓」に招かれているという恵みの体験は、日常生活の中で徐々に積み重ねられて、それが私の信仰に深化していったようだ。

主が共にいてくださるという恵みは、まだ見ぬ「主の庭」を望み見て、自由に散策する自分を思い描いている、はるかなる希望である。

四旬節英語黙想会

貴重な学びの場

山口　ローレン

特に私たちの主任司祭の林正人神父、生涯養成委員会委員長の林佳香様、教会指導者の皆様、メンバーの千種ジェシカさん、小峰ロサリーさん、みなさん、ありがとうございました。私たちみなの気持ちです。

世界中に大変な脅威となるコロナパンデミックが起き、教会での黙想会や活動が中止され二年が過ぎました。

私たちは行政の要請に従い、行動を自粛させられ、ほとんど家にいるだけで、仕事に行くこともままならない日が続いてきました。

毎週日曜日、ミサは実施されていますが、地域ごとの人数制限で行われています。ミサに参加できない仲間は、オンラインやユーチューブ、フェースブックなどでのミサを代わりに見ています。私たちフィリピンコミュニティや他の国の人たちにとって、このことは非常に辛く悲しいことです。私たちはいつも神に祈ることで、神によっていつも守られており、今回、久しぶりに英語での四旬節黙想会を行うことができましたことを大変嬉しく思うと共に、感謝とお礼申しあげます。また、カトリック相模原教会のマリノ神父様、「イエスの誘惑」についての素晴らしいレクチャーをありがとうございました。おかげさまで、私たちにとって貴重な学びとなりました。

イエスキリストと母マリアにお祈りいたします。私たち全ての者に神のご加護を。

特別寄稿

復活による恵み〝セカンドチャンス〟

相模原教会　マリノ・デハクト神父

失敗したことがない人はいないと言われていて、失敗は私たちの生活の一部だと言えるでしょう。失敗によって成長することもあります。しかし失敗して希望を見い出すことが出来なくなってしまう人もいます。特に大事なことを決める時、正しいことを選択することに失敗すれば、その人の人生に悪影響をおよぼすことがあるからです。このような失敗から立ち直ることが出来なければ、全生涯が無駄

なものになる可能性があります。いいチャンスはそんなにたびたびある訳ではないと言われていますが、大きな失敗でも立ち直ることが出来ないというわけではありません。ただし失敗したということをまず最初に認めることが大切です。それが出来れば、悔いのない生涯を進むことが出来るようになるのです。謙遜な心を持ってさえいればやり直しはできます。どんな大きな失敗をしてもセカンドチャンスはあると考えたほうがいいと思います。

私たちはミサによって復活されたイエス様に出会うことが出来ます。最初の弟子たちと同じようにイエス様の証人になるように招かれています。弟子たちは栄光を得られるために受難を乗り越えなければならないことを最初は理解できなかったのです。私たちも日常生活の中で様々な問題があって、イエス様のことを忘れてしまう時があります。また大変な状況に出会う時、信仰が揺れてしまうこともあります。イエス様が最初の弟子たちと共にいらっしゃったように、私たちとも共におられます。弟子たちは一度イエス様を捨てたのです。しかし、復活されたイエス様から二度目のチャンスが与えられた時、彼らはイエス様に忠実に従いました。私たちはミサにあずかる度にイエス様が私たちの過ちを赦して、ご自分に従う者になるチャンスを与えられているのです。この恵みを大切にして、失敗してしまった時、絶望ではなく、神様の元に立ち帰ることが出来ることを心に留めましょう。

編集後記

「雷の子」に新しい編集スタッフが加わりました。ベテランの池田克久さんに加え、大学生二人、阿部恵慈さん、嶋田直人さんです。若返りの兆し。うれしいことです。

信　者　動　静

（個人情報のため、削除しています）